

自己評価

会議日 29年3月17日

参加者：理事長、教務3人、事務1人

1. 学校の理念・使命・ビジョンについて

【意見】

- ・進学に特化しているということは明確に理解できている。
- ・一方で、学生の進学に向けての学校内体制が万全でないと思う
- ・進学に強い日本語学校になったあとの将来ビジョンが明確にはなっていないのではないか。

- （学校の対応）今後、将来ビジョンを明確化し教職員にも広く周知するようにする。

2. 組織運営・人事システムについて

【意見】

- ・教員については資格を持っているだけでなく入社後も研修等を行う必要があるのではないか
- ・情報システム化では使いにくさとかが残っているため、効率化できない部分が多くある
- ・事務職員の定着率が悪い
- ・事務職員も能力向上のための研修等が必要ではないか

- （学校の対応）今後教職員とも研修を実施し、人材開発も視野に入れていく。
- （学校の対応）情報システム化の更新については今後調査し更新時期を含めた検討を行う。

3. 学生指導について

【意見】

- ・在校生に対しては社会人になるためのキャリア教育も施し大学・大学院進学選定のヒントも与える必要もあるのではないか
- ・卒業生のその後の歩みを検証して、当学院の日本語教育の良さ悪さを検証する必要があるのではないか（ある卒業生によると当学院の日本語教育は良い。大学院に進学した時に他の学生と比べると日本語ができていると評価してもらっているとのことである）

- （学校の対応）学生に対してキャリア教育も含め進学に資する対応を実施していく。

4. 日本語指導について

【意見】

- ・授業で使う補助教材を統一してみてもどうか（例えばフラッシュカードを学校側で作成するなど）
- ・どうしてもコミュニケーションの力がつきにくい。学生個々に任せるしかないのだが何かいい方法を今後考える必要があるのではないか。

- （学校の対応）教材開発については授業で使うものを集約して学校として作成していくものとする。
- コミュニケーション力をつけるためには日本人と積極的に会話していく必要がある。そのため、例えば、浦和パルコにある国際交流センターにある日本語会話教室などでのボランティアの方と会話をさせるよう案内していく。

5. 学生からの評価について

【意見】

- ・わかりやすく、内容も適切との評価を得ているが、授業の狙いや補助資料については満足度が他に比べると低いようだ。
 - ・満足度はほぼ 80%となっている。さらに、満足度が上がるように普段の授業に力を入れていくべきである。
-
- （学校の対応）学生の満足度を上げる活動は常時していくようにする。